

船舶事故等調査報告書

平成27年9月17日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014神第112号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成26年6月20日 15時35分ごろ
発生場所	兵庫県赤穂市赤穂港松ノ鼻南西方 住友大阪セメント赤穂港導灯（前灯）から真方位161° 1,845m付近 （概位 北緯34° 43.90′ 東経134° 22.34′）
事故等調査の経過	平成26年9月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 泰平丸、499トン
船舶番号、船舶所有者等	134782、大央商運株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	プロペラ翼に曲損
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか4人が乗り組み、赤穂港内の赤穂公共物揚場に着岸して食塩936tを積載し、船首約2.8m、船尾約4.0mの喫水で、岡山県玉野市山田港に向けて出港した。</p> <p>本船は、赤穂公共物揚場の南西端から西方に延びる防波堤の先端を左舷方に見て南西進中、平成26年6月20日15時35分ごろ、松ノ鼻南西方の浅所に乗り揚げた。</p> <p>本船は、自力で浅所を離れて航路外に錨泊し、船体及び機関各部を調査したところ、航行に支障がなかったので、その後、航海を続けた。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 雨、風向 南西、風力 1、視界 不良</p> <p>海象：潮流 北北西流約0.1ノット、潮汐 上げ潮の中央期、潮高約1.2m</p>
その他の事項	<p>海図W111（相生港、赤穂港）によれば、本事故発生場所付近の水深は、約2mであり、底質は泥まじりの砂である。</p> <p>船長は、赤穂港を航行した経験が豊富であり、松ノ鼻周辺の水深が浅く、可航幅が約40mであることを知っていた。</p> <p>船長は、本事故後、風潮流で圧流されたのではないかと思った。</p> <p>本船は、本事故後、主機回転数毎分233の常用回転数で運転中に船体振動が発生するようになり、平成26年9月の定期検査工事で、プロペラ翼を研磨し、修理された。</p>

分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、赤穂港を南西進中、風潮流に圧流されたことから、松ノ鼻南西方の浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、赤穂港を南西進中、風潮流に圧流されたため、松ノ鼻南西方の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・浅所を航行する場合、潮流による圧流を考慮した適切な操船を行うこと。